

新学術創成研究科 融合科学共同専攻
【授与する学位】博士（理学）

| 大学（大学院）の目的 |
|---|
| 金沢大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。 博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。 |

| 学類（研究科）の教育研究上の目的 |
|---|
| 新学術創成研究科は、革新的かつ新しい学問分野・学問領域の創成につながる領域融合的な研究による成果を基盤に大学院教育を実施し、学際性・総合性・国際性を有する研究者や産業人等を育成することを目的とする。 博士後期課程融合科学共同専攻は、グローバル社会のニーズや動向に応じて、独創的な発想と卓越した研究力を基に、科学技術イノベーションの基盤を生み出し、社会実装できる博士人材を育成する。 |

| ディプロマ・ポリシー（DP） | カリキュラム・ポリシー（CP） | アドミッション・ポリシー（AP） |
|--|--|--|
| 【修了認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】 教育理念に掲げる4つのフォースを基礎とした“科学を融合する方法論”を探究・実践した上で、所定の期間在学し、かつ所定の単位を修得した上で、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生のうち、下記に掲げる1～5の能力・資質（コンピテンス）を修得し、かつ6を修得した学生に対しては「博士（理学）」の学位を授与する。 | 【教育課程編成に関する基本的考え方】 教育理念に掲げる3つのチャレンジの枠組みの下で、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果に到達するため、“課題解決志向型”の教育内容・手法を重視し、学生が教育プログラムの履修を通して身に付けるべき要素を踏まえた体系的なカリキュラム（教育課程）を編成する。具体的には以下の科目群を体系的に構成・配置する。 | 【入学者受入れに関する基本的考え方（前文）】 修士又は博士前期課程等で修得してきた分野の専門知識のほか、専門が異なる分野にも多角的・論理的思考力を持って他者との協奏的活動に取り組み、グローバルに活躍しようとする姿勢を備え、複雑で困難な問題を分野融合の力で発見及び解決し、社会の発展のための新しい高度な価値を積極的に創造しようとする強い意欲を持つ者を受け入れる。 |
| 【学生が身に付けるべき資質・能力】 1.科学技術イノベーションに関連する社会課題を自ら発見し、かつ構造化した上で課題解決できる能力 2.自分の専門分野に関する最先端の知識と実践力 3.他分野の知見、技術を自分の専門分野に活用できる能力 4.国際会議や海外共同研究において、外国語で研究成果を発表し議論できる能力 5.科学・技術・生命に対する実践的な研究者倫理観 6.自分の専門分野を核とし、新たな知を創出できる能力 | 【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】 「グローバル社会のニーズや動向に応じて、独創的な発想と卓越した研究力を基に、科学技術イノベーションの基盤を生み出し、社会実装できる博士人材」を育成すべく、前期課程における基礎能力を素地とした上で、さらに科学を融合する方法論を探究・実践することにより、社会におけるニーズや動向に応じて、科学技術イノベーションに関連する社会課題を自らが発見し、課題解決ができる「実践的課題解決能力」を修得させるため、以下の科目を配置する。 1.自分の専門分野に関する知見を深化させるための体系的な専門科目と研究支援科目 2.分野融合セミナー・グループワークや異なる分野における研究等の異分野融合を主とした異分野「超」体験科目 3.社会のニーズを踏まえた実践的教育を行うための社会実装科目 | 【求める人材】 修士又は博士前期課程等で修得してきた分野の専門知識のほか、専門が異なる分野にも多角的・論理的思考力を持って他者との協奏的活動に取り組み、グローバルに活躍しようとする姿勢を備え、複雑で困難な問題を分野融合の力で発見及び解決し、社会の発展のための新しい高度な価値を積極的に創造しようとする強い意欲を持つ者を受け入れる。 |
| | 【学修成果の評価】 (1) 学修成果の評価については、シラバス及び入学年度毎に発行するガイドブックに記載する。 (2) 論文に対して審査基準と審査方法を明示し、それに基づき研究成果の審査及び試験を行う。 | 【選抜の基本方針】 学力検査（口述試験）及び「学業成績証明書」を総合して選抜を行う。 |
| | | 【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】 |